

労働市場を取り巻く状況変化

- 人口減少、少子高齢化
- 企業側の変化（グローバル化、技術革新の進展、産業構造の変化）
- 労働者側の変化（価値観の多様化、共働き世代の増加）

雇用労働の状況変化

- 非正規労働者の増加と賃金格差の拡大
- 正規労働者の絞り込みと長時間労働者の増加
- 女性、高齢者の能力発揮できる環境が十分でないこと
- 学校教育や能力開発に対する産業界のニーズとのミスマッチ
- 労働組合組織率の低下と個別労使紛争の増加

今後懸念される問題・政策課題

- 雇用の不安定化や格差拡大→労働者生活の安定・向上
- 経済活力の低下→生産性の向上・競争力の確保
- 健康被害の拡大、少子化の進行→ワークライフバランスの確保
- 労働力人口の減少→就業率の向上

雇用労働政策を策定する上での基軸：「上質な市場社会」に向けて～公正、安定、多様性

「競争力の強化、経営の効率化」と「労働者の職業生活の安定、自己実現」との調和を図るため、適切に市場メカニズムを活用しつつ、①公正の確保、②安定の確保、③多様性の尊重の三つの要素を満たしていくこと、このような意味での「上質な市場社会」に向けて政策を講じていくことが雇用労働政策を策定する上での基軸。

※ 中長期的に一貫性があり、かつ、実効性の高い雇用労働政策を策定するためには、雇用労働政策を策定する上で、常に念頭におき政策の妥当性を判断する「基軸」を持つ必要があり、雇用労働の事情に精通し、また当事者でもある労使の代表者が、それぞれの立場を超えて学識経験者とともに、その共有に向けて議論を行うことが重要。

公正の確保～豊かな活力ある経済社会にふさわしい「公正な働き方」の確保～

- ・ 労使間の交渉力・情報量の格差を前提に、集団的労働条件決定システムや、その枠組みの多様化が必要。
- ・ 二極化による社会の不安定化を防止するため、豊かな活力ある経済社会にふさわしい公正な労働条件の確保が必要。
- ・ 個別の労働条件の公正に決定する仕組みや紛争解決の仕組みの整備、最低労働条件の設定・見直しが必要。
- ・ さらに差別の解消や機会均等などが必要。

安定の確保～「雇用の安定」と「能力開発による職業キャリアの発展、安定」の確保～

- ・ 労働者の生活の不安定化を防止するためにも、企業における技能蓄積や企業文化の醸成を進め、さらには不必要な社会的コストをかけないためにも、雇用の安定が重要。
- ・ 一方、キャリア形成のため積極的に転職しようとする者も増加するとともに、失業を余儀なくされる場合もあるため、能力開発と外部労働市場の整備を進め、職業キャリアの発展、安定を図っていく必要。

多様性の尊重～多様な選択を可能とすることによる能力発揮、競争力の確保～

- ・ 労働者の多様なニーズに対応するとともに、企業が多様な労働者の能力を最大限活用し、生産性の向上を図っていくためには雇用スタイルに関し、多様な選択が可能となるようにする必要。
- ・ 多様な働き方が主体的に選択可能となるとともに、ライフステージに応じて、様々な働き方の間を行き来できるように条件整備を進めていく必要。